

アラカルト・カフェ日記

第4回

日時 令和2年10月28日(水)18:00~20:00

ご来店者 33人(対面13人、オンライン20人)

現任保健師、在学生、学部卒業生、大学院修了生、教員など



噂のオリーブの実です！

山口大学のホームカミングデー(教員と卒業生が交流できる日)の前夜祭として開催し、オンラインでの参加も始めました。他県からの参加もあり、より多くの方に来店いただきました。中には、卒業以来の懐かしい顔も拝見でき、笑顔あふれる会となりました。

今回のメインディッシュは、前保健学科長で、現宇部興産中央病院院長の清水昭彦先生にご講話いただいた、「コロナと闘う院長の語り~新型コロナに対応する地域病院の実情~」です。

コロナの発生段階別の病院での対応、院内感染時の緊張感ある対応を時系列にそってお話いただきました。職員へのコロナに対する恐怖心の払拭や日々更新される情報伝達の難しさ、圧倒的な人手不足、行政とのやり取りの煩雑さ、PCR検査のリスクなどに苦勞されている実情を聞き、一人ひとりが正しい情報を更新する努力をして、デマに流されず、落ち着いて対応していくことの重要性を改めて感じました。

座談会では、「私だけが知っている山口大学のヒ・ミ・ツ」がテーマでした。う~んと悩む方もいましたが、とっておきの興味深いヒミツをたくさん知ることができました♪

第5回

日時 令和2年11月30日(月)18:00~20:00

ご来店者 12人(対面8人、オンライン4人)

現任保健師、在学生、大学院修了生、教員など



今回は「コロナ禍でみられる心の問題」について、保健学科(臨床心理学担当) 安達圭一郎先生にご講話いただきました。

コロナに関する最新の知見や病気認知、スティグマの影響、心理的影響の軽減に向けて、学術的な視点で大変分かりやすくお話いただきました。その後のディスカッションでは、保健師が平時から行ってきたネットワークづくり等の活動が、コロナ禍でも変わらず大切だと再認識する機会となりました。そして、誰かが気にかけてくれる感覚が、孤独を予防し、生きる希望につながるということを改めて実感しました。

座談会のテーマは「コロナだけど、こんなことチャレンジしてみました」でした。家庭菜園や釣り、運動、ハンドフィーリング、清掃活動、通勤中の二重タスクなど、予想外のチャレンジもあり、素敵なお時間でした。守田先生のチャレンジの詳細は、1月?2月?のお楽しみです。

またのご来店お待ちしております♪